

# はるな愛さんと 多様性を理解する イベントを開催



さとちんさん

弁護士 黒田隆史さん

はるな愛さん



昨年10月、タレントのはるな愛さんをお招きし、性的マイノリティや多様性を理解する社会づくりを考えるイベント「Sanjo Rainbow Conference」を開催しました。

はるな愛さんは、トランスジェンダーであったことを周囲にカムアウトするか葛藤を抱えていたときの昔の自分に対して、「ありのままの自分で良い。間違いはないから、自信を持って生きてほしい」と言ってあげたい。「と話され、悩んでいる人を勇気づけていました。

イベントには、約300人もの人が駆け付け、多様な性を認め合うまちへの大きな一歩を踏み出す機会となりました。

三条市は、市民一人一人の個性や多様な生き方を尊重し、性別に捉われることなく、誰もが暮らしやすい社会を目指します。

地域経営課 ☎34-5624



# 三条市パートナーシップ 第1号宣誓者インタビュー

制度開始と同時にパートナーシップを宣誓され、第1号となったお二人に話をお聞きしました。

制度を要望する署名を提出したときの気持ちは？



はが ふうま 羽賀 風真さん

PRIDE LINK代表

羽賀さん

私たちはPRIDE LINKという団体で、LGBTQ+の正しい認知を広げて、誰もが生きやすいまちにする活動をしています。

そこで、制度を求める声を集めて、署名の形で市長に届けることにしました。

約2,300人もの人から署名をいただき、市長にバトンをつけることができました。ご協力いただいた皆様に感謝の気持ちです。

パートナーシップを宣誓し、公認された感想は？

長谷川さん

私たちはこれまで婚約者であり、事実上の「ふうふ」でもありましたが、自分たちがそう思っても、社会的には「ふうふ」にはなれず、お互いの身に何かあったらと考えると不安でした。

制度ができ、パートナーシップを宣誓して、公的に認められた今は安心しています。パートナーに何かあったときにも、家族としてそばにいられる、責任を共有できることは大きいです。



はせがわ れな 長谷川 玲奈さん

PRIDE LINK所属

今後の三条市に期待すること

羽賀さん

ファミリーシップ制度の制定は、三条市が県内初です。市長がLGBTQ+に理解があり、市政運営されていることを嬉しく思います。

ただ、パートナーシップ制度も含めて、市民の認知度がまだ低く、民間企業の福利厚生などへの浸透が足りないことに課題を感じています。また、学校でも性の多様性を学べる機会があればと思います。学校では特に、男女分けされることが多く、違和感がある子どもたちがいると思います。

カミングアウトしたときに受け入れてもらえる環境があれば、LGBTQ+の当事者の悩みは軽減します。市内の当事者の人々が過しやすいまちになることを期待しています。

※カミングアウトとは自分自身がLGBTQ+であることや他人に打ち明けることです。